

自 己 評 価 書

(平成 2 7 年度)

平成 2 8 年 3 月

鳴門教育大学附属中学校

目 次

I 学校の現況及び目標 1

II 重点目標に対する自己評価 2

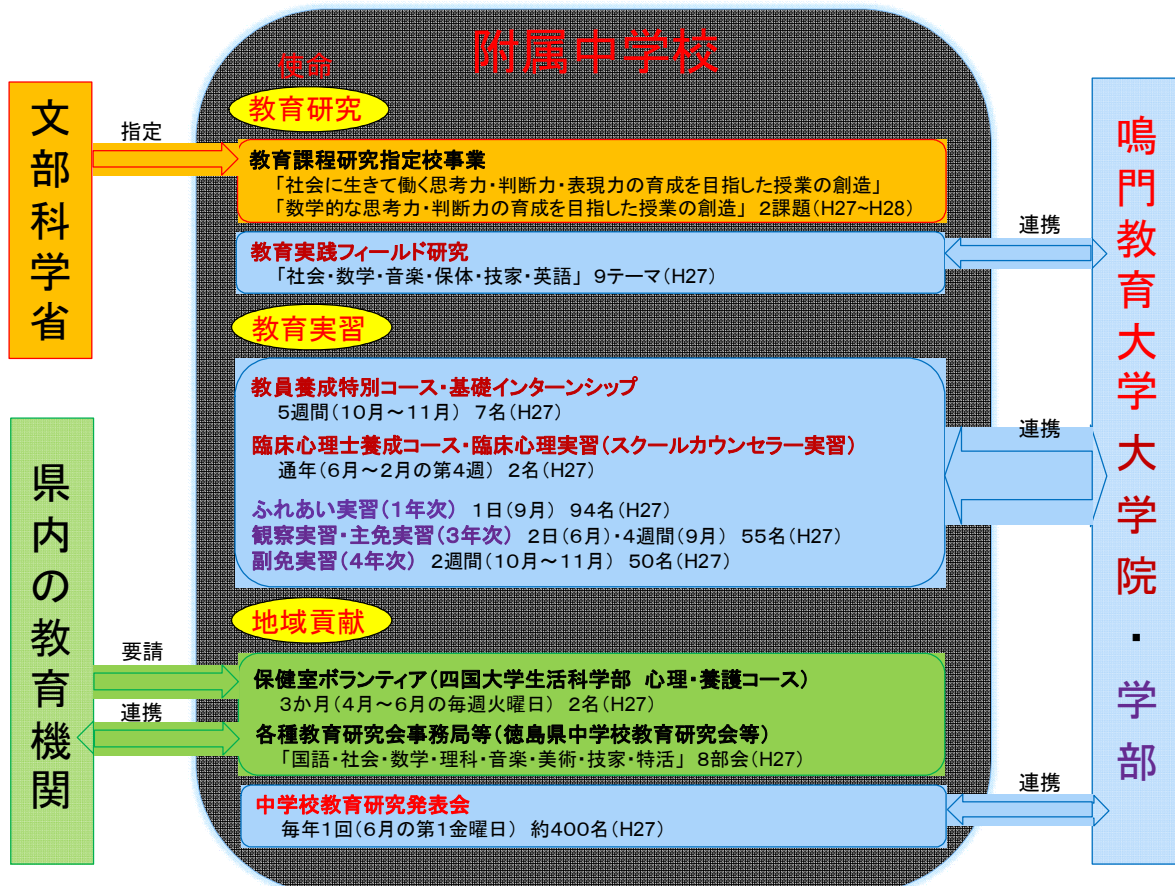
1 社会に生きて働く思考力等の育成 2

2 いじめの防止 10

3 キャリア教育の推進 18

III 自己評価根拠資料一覧 26

本校の使命に関する取組状況



I 学校の現況及び目標

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
 - 1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
 - 3 学年 4 学級 計12学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成27年5月1日)
 - 生徒数 461人 教員数 23人(正規教員)

2 目標

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ② 鳴門教育大学の学部学生の実地教育（教育実習）及び大学院生との教育実践研究等を行う使命
- ③ 教育界の課題の解明に努め、関係機関と連携し、本県中学校教育推進に寄与する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体をもち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成27年度重点目標（実践事項）

- ① 社会に生きて働く思考力等の育成
 - ア 単元・題材の工夫・改善や目標・指導・評価の一体化
 - イ 学習方法の工夫や教材・教具の開発
 - ウ ICT機器の効果的な活用
- ② いじめの防止
 - ア 言語活動やグループ活動の充実
 - イ 短学活や道徳の時間の工夫
- ③ キャリア教育の推進
 - ア 目指す姿や付けたい力の具体化と振り返り
 - イ 役割の明確化や係活動の徹底

(4) 平成27年度評価項目（評価指標）

- ① 社会に生きて働く思考力等の育成
 - ア 保護者対象アンケート（7月と12月に実施）
 - 「先生は生徒が考えたい課題を設定している」
 - 「先生はICT機器を活用している」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）
 - 「学習指導」
- ② いじめの防止
 - ア 保護者対象アンケート（7月と12月に実施）
 - 「生徒は楽しい学校生活を送っている」
 - 「生徒は相手の思いを踏まえて会話している」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）
 - 「生徒指導等」
- ③ キャリア教育の推進
 - ア 保護者対象アンケート（7月と12月に実施）
 - 「自分の子どもは家庭で役割を果たしている」
 - 「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」
 - イ 教職員対象自己申告による目標管理（2月）
 - 「学級経営・学校運営・その他」

Ⅱ 重点目標に対する自己評価

重点目標 1 社会に生きて働く思考力等の育成

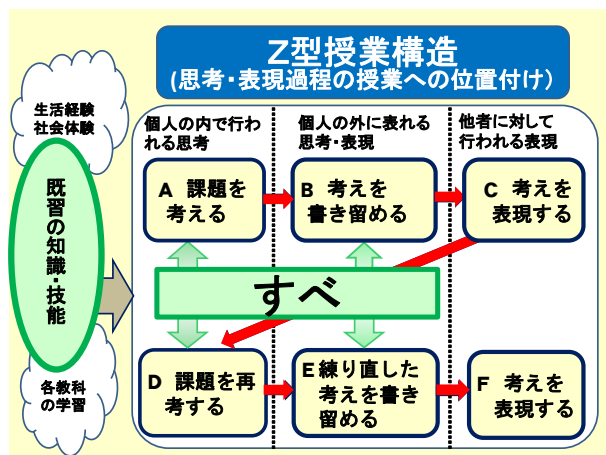
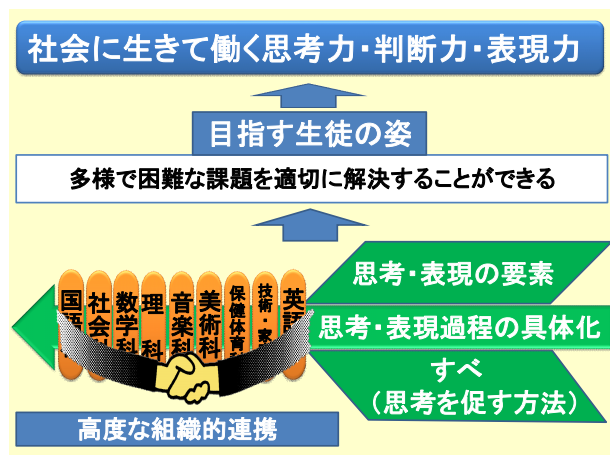
平成19年6月に改正された学校教育法に、学校教育の目標を達成するためには、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と示された。

本校は平成20年度から5年間、「思考力・判断力・表現力を育む授業の創造」を研究主題とし、各教科で連携して研究を進めてきた。平成25・26年度の2年間は、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業（論理的思考）を受諾し、「社会に生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造」を研究主題として、社会生活の中で活用される教科横断的な論理的思考力やそれらを表現する力の育成に努めてきた。

本年度も引き続き本事業を受諾し、6月に開催した研究発表会やその後の各種研究会等で、これまでの研究成果の発信に努めている。

< 研究の概要 >

多様で困難な課題を適切に解決することができる力として、社会に生きて働く思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、授業で扱う「思考・表現の要素」を明確にし、思考を促す方法である「すべ」を活用して、「思考・表現過程の具体化」を図る。そして、まず自分で考え、その後仲間との意見交流を踏まえて自分の考えを深める授業過程である「Z型授業構造」を全教科で取り入れる。各教科が連携して取り組むことで、社会に生きて働く思考力・判断力・表現力が育成できるものとする。



思考・表現の要素	
思考の要素	表現の要素
選択する	描写する
整理する	音読する・朗読する
予想(推測)する	記録する
仮説を立てる	説明する
構想する	紹介する
計画する	報告する
解釈する	創作する
鑑賞する	制作(製作)する
把握(理解)する	
分析する	
評価する	

思考・表現過程の具体化の例		
すべ(思考を促す方法)	思考の要素	表現の要素
比較する	選択する	描写する
分類する	整理する	音読する・朗読する
関係付ける	予想(推測)する	記録する
条件を制御する	仮説を立てる	説明する
多面的に見る	構想する	紹介する
規則性を見付ける	計画する	報告する
	解釈する	創作する
	鑑賞する	制作(製作)する
	把握(理解)する	
	分析する	
	評価する	
多面的に見て	解釈し	説明する

1 実践事項への取組

(1) 単元・題材の工夫・改善や目標・指導・評価の一体化

ア 単元を工夫した例（国語科「メディアの特徴を生かして伝えよう」）

生徒が課題を設定して学習活動を進めるような単元を構想した。（全8時間）

時	学 習 活 動	指導内容・指導方法
1	○誰に、何を伝えたいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の概要を知らせ、学習活動への意欲を持たせる。 ・「自分が伝えたい」かつ「相手が知りたい」話題を選ばせる。
2 3	○「メディア社会を生きる」（水越伸）、「メディアと上手に付き合うために」（池上彰）を読んで、メディアの特徴を捉える。 ○テレビ、新聞、インターネットの長所と短所を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・水越伸氏の考えるメディアと、池上彰氏の考えるメディアを比較する。 ・メディアを、「話し言葉—書き言葉」、対象が「特定の人—不特定の人」で分類する。 ・「メディアと上手に付き合うために」において、池上彰氏がどのように述べているかを読み取らせる。 ・どのメディアを使って、どのように伝えれば効果的かを考え、仮説を立てさせる。
4 5	○何を根拠にすると説得力があるのか、どのように表現すればよいのかについて、資料を集める。 ○根拠を基に説明を組み立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や「やさしい日本語」から、伝え方の工夫を活用カードにまとめさせる。 ・事柄の羅列ではなく、表や写真、図などを取り入れて、分かりやすい表現を工夫させる。 ・話した瞬間に消えていくという話し言葉の特性を考慮し、話の論理的な構成や展開を工夫させる。
6	○企画会議で提示する資料を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・①誰に、何を伝えたいのか、②メディアのどのような特徴を生かしているのか、③どのような工夫をしているのかなどを説明させる。 ・発表時間が5分程度であることを示し、企画会議に諮りたい課題を明確にさせる。 ・効果的に伝えるために説明や具体例を工夫させる。
7	○企画会議を開いてプレゼンテーションをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に声を届けるという意識を持ち、資料や機器などを効果的に活用して説明するよう指示する。 ・資料のまとめ方、メディアの生かし方など、自分の発表と比べながら聞かせる。
8	○企画会議でのアドバイスを基に作品を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・班の意見交換で出たアドバイスを、聞き手（読み手）の反応として参考にするよう指示する。

思考・表現過程の具体化

<p>社会生活・学校生活の中的话题を、相手に、メディアの特徴を生かして伝えるために、 <small>(学習内容)</small></p> <p>多面的に見たり、比較したりして構想し、説明する。 <small>(すべ) (思考の要素) (表現の要素)</small></p>
--

イ 目標・指導・評価の一体化の例（数学科「図形と相似」）

課題を解決するための見通しを立てる活動や学習を振り返る活動の仕方について工夫した。

※表中の方針は、「課題解決の方針を立てる（確認する）活動の場の設定」の授業スタイルを示す。

「学習課題」 思考・表現過程の具体化	方針	評価規準
「相似条件について考えよう」 相似条件を見出すために、三角形の合同条件と比較したり、関係付けたりすることを通して分析し、それが条件となることを説明する。	A	三角形の相似条件を用いて、2つの三角形が相似であるかどうかを考えることができる。
「図形の性質を証明しよう」 図形の性質を証明するために、関係を示したい辺や角を含む相似な三角形と関係付けて構想し、その関係が成り立つことを証明する。	B	見出した図形の性質などを、三角形の相似条件を用いて証明することができる。
「平行線と線分の比の関係について考えよう」 平行線と線分の比の関係を、相似な三角形や既に証明したことと関係付け、その筋道を構想し、その関係が成り立つことを証明する。	C	平行線と線分の比についての性質や三角形の相似条件を用いて証明することができる。
「建物や木の高さを測ろう」 4つの校舎や木の高さの測定方法を示す図で、実際に測定できる理由を相似な図形と関係付けて分析し、その方法で高さが求められる理由を説明する。	C	与えられた図形や日常の場面の中に相似な図形を見いだすことで、建物や木の高さが測れる理由を説明することができる。

課題解決の方針を立てる(確認する)活動の場の設定

三つの授業スタイル

A	個人または複数で方針を立て、学級で共有してから解決していくスタイル
B	個人または複数で方針を立て、結果を全体で共有する場面で、立てた方針を確認するスタイル
C	方針を立てることに言及せず、結果を全体で共有する場面で、立てた方針を確認するスタイル

課題解決の方針を立てる(確認する)活動の場の工夫

第3学年
「木や校舎の高さを求めよう」の実践

課題解決の方針を立てる(確認する)活動の場の設定

A	個人または複数で方針を立て、学級で共有してから解決していくスタイル
B	個人または複数で方針を立て、結果を全体で共有する場面で、立てた方針を確認するスタイル
C	方針を立てることに言及せず、結果を全体で共有する場面で、立てた方針を確認するスタイル

課題解決の過程を振り返ることで、思考を整理することを意図している。

課題解決の方針を立てる(確認する)活動の場の工夫

ボーイスカウト日本連盟機関誌「SCOUTING」2014-1

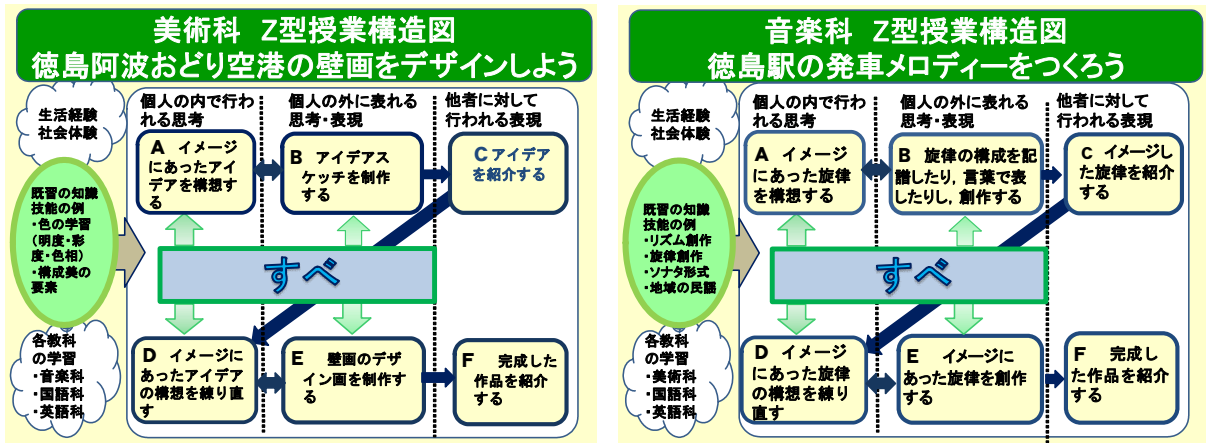
課題解決の方針を立てる(確認する)活動の場の工夫

課題解決の過程をフローチャートの形で整理し、方法の違いによる関係付けられる根拠の違いを確認した。

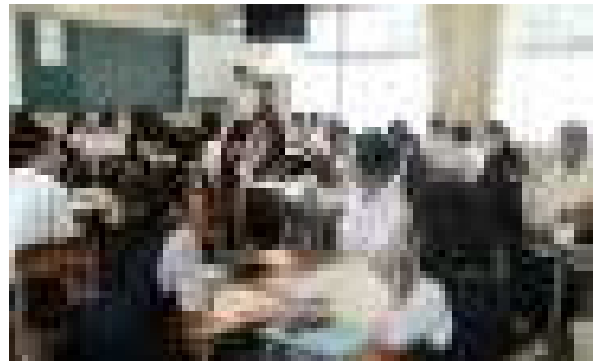
(2) 学習方法の工夫や教材・教具の開発

ア 学習方法を工夫した例

教科の連携を図った学習活動（美術科・音楽科）



ペア学習やグループ学習の活性化（道徳・学級活動）

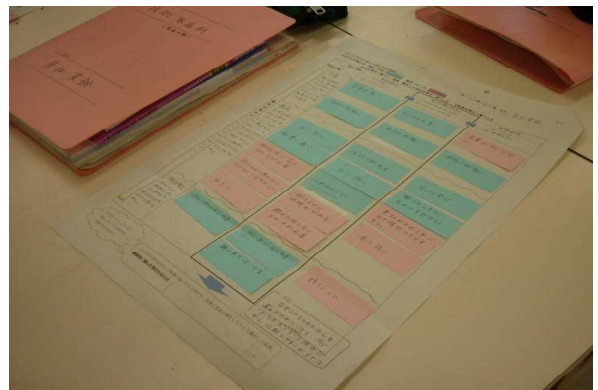


イ 教材・教具を開発した例

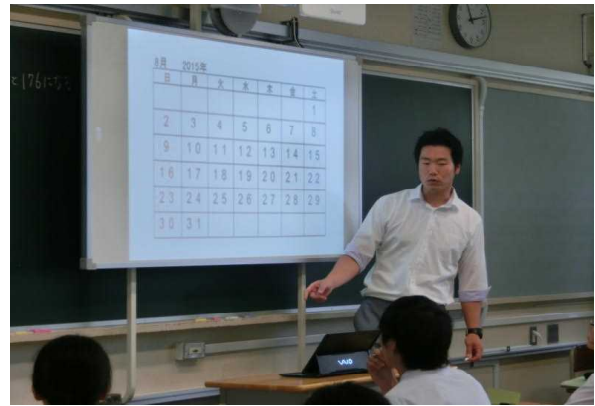
ホワイトボード代用品として、ラミネートした紙で説明する（社会科）



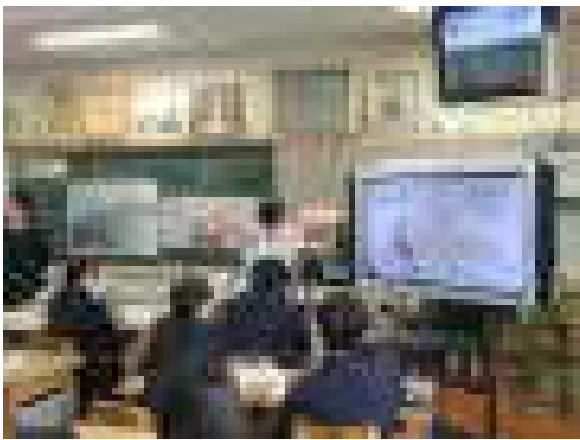
ワークシートを工夫し、生徒の学びを可視化する（技術・家庭科）



(3) ICT機器の効果的な活用
可動式電子黒板の活用（数学科）



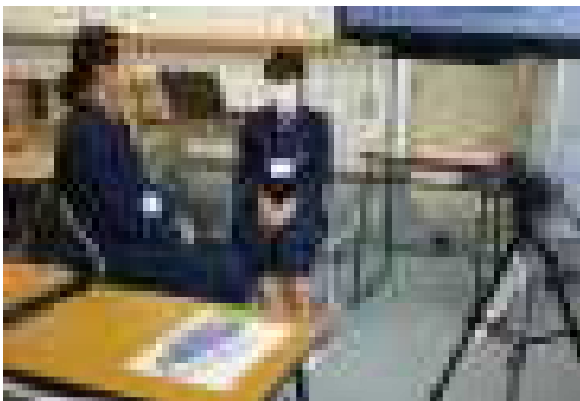
書画カメラ（実物投影機）の活用（美術科）



タブレット端末の活用（音楽科）



ビデオカメラの活用（英語科）



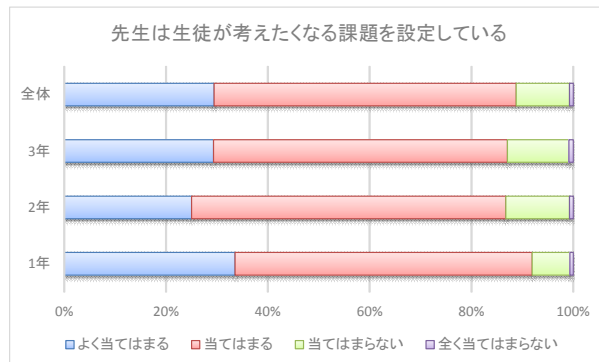
2 評価項目の状況

(1) 保護者対象アンケート

「先生は生徒が考えたいくなる課題を設定している」目標95%以上（昨年90.7%）

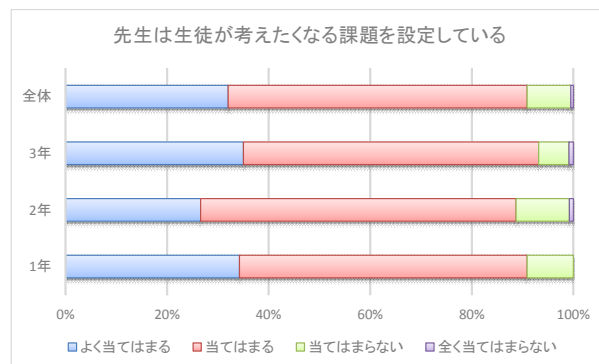
第1回（7月） 88.78%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	50	34	34	118
当てはまる	87	84	67	238
当てはまらない	11	17	14	42
全く当てはまらない	1	1	1	3



第2回（12月） 90.89%

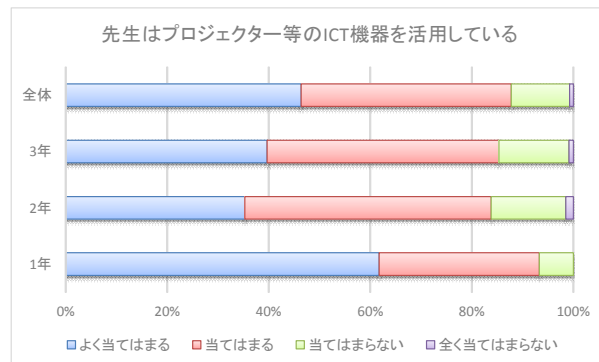
	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	49	33	41	123
当てはまる	81	77	68	226
当てはまらない	13	13	7	33
全く当てはまらない	0	1	1	2



「先生はプロジェクター等のICT機器を活用している」目標90%以上（昨年87.7%）

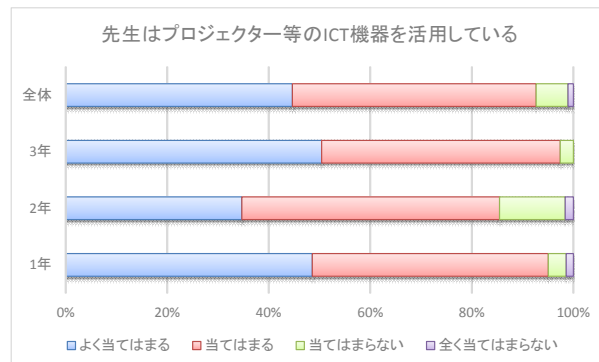
第1回（7月） 87.78%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	92	48	46	186
当てはまる	47	66	53	166
当てはまらない	10	20	16	46
全く当てはまらない	0	2	1	3



第2回（12月） 92.69%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	69	43	59	171
当てはまる	66	63	55	184
当てはまらない	5	16	3	24
全く当てはまらない	2	2	0	4



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 単元・題材の工夫・改善や目標・指導・評価の一体化

当初申告	最終申告	評価
生徒が課題を設定して学習活動を進めるような単元的展開の授業を3つ以上構想し、生徒に課題を設定させるための手立てをまとめる。	3つ以上の単元において、生徒に課題設定させる授業を行い、課題設定の方策をまとめた。	A
課題を解決するための見通しを立てる活動や学習を振り返る活動の仕方について工夫する。	方針を立てる、確認する活動を意識して授業を行うことができた。また、板書や振り返りの場面の持ち方など工夫することができた。	A
読み手や聞き手を意識して自分のアイデアや気持ちを英語で表現する学習課題を、各単元で1回以上設定する。	各単元の最終学習活動として設定できた。また、より相手意識を持たせる指示や条件を出せるようになってきた。	A
領域の関連を持たせた年間指導計画を立案する。	各領域や各分野の関連を持たせた計画立案によって、学習内容の深まりが見られた。	A
授業時数の8割以上は、数学的活動を取り入れた実践を行い、その到達状況を生徒のノートから見取る。	数学的活動を取り入れた授業を8割以上実施することはできたが、ノートによる見取りは十分できなかった。	B

イ 学習方法の工夫や教材・教具の開発

当初申告	最終申告	評価
ワークシートを工夫し、生徒の学びを可視化することで、次の学習に生かす。	3つ以上の単元において、ワークシートの工夫を行った。また、ロジックツリーや活用カードを、他の学習にも生かすことができた。	A
各学期に1度、自分が開発した教材を使った授業を行う。	ICTを用いた自作教材で授業を行うことができた。	A
自分の考えと他者の考えを整理し、再思考の際に有効に活用できる可視化ワークシートを開発する。	学習活動を振り返り、思考を可視化させながら問題解決学習に取り組むことで、すべてを用いて生徒の思考を促すことができた。	B
運動技能の構造や身体構造に関する学習カードを作成し、それぞれの技能の変化が見えるようにする。	運動技能の構造を示す学習カードは作成できなかったが、単元を振り返るカードを作成し、生徒は技能の高まりを感じることができた。	B
自作教材を5つ以上、ワークシートを10枚以上作る。	新たに作ったワークシートは5枚。自作教材は3つ作ることができた。	B

ウ ICT機器の効果的な活用

当初申告	最終申告	評価
新しいICT教材を1つは開発する。	ICTを効果的に使った教材を開発し、授業実践に生かすことができた。	A
単元展開の必要性に応じて、ICTを活用し、実践例を紹介する。	4つ以上の単元において、ICTを活用した実践を行った。また、映像資料を使って時代背景を捉えることができた。	B
各単元で必ずICTを有効に活用し、わかる授業を工夫する。	パワーポイントによる視覚教材を有効活用し、分かる授業を工夫した。	B
タブレット端末や電子黒板を用いて、個人や班活動における生徒の作成物を示し、思考の過程を共有する。	ほぼ毎時間行うことができた。また、モデルとなる生徒の作成物を電子黒板に映し、評価の基準を示したので、生徒は自分の作成物の推敲を行いやすかったと感じている。	B

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 国立教育政策研究所の研究指定校事業を受託し、各教科が連携しながら学校全体で思考力等の育成に取り組んでいる。本校の取組を視察に来る学校もあり、先進的な取組のモデルとして示すことができている。
- 保護者対象アンケートにおける「授業の工夫・充実」に関する項目の評価が高く、学校の取組が支持・信頼されている。
- 全国学力・学習状況調査の知識・活用問題における平均正答率が、ともに全国国立中学校の平均正答率を上回っている。

(2) 改善を要する点（課題）

- 各教科で育成する思考力等と社会に生きて働く思考力等を整理し、その力が育成できたかを評価する必要がある。
- 教員の授業準備等にかかる労力が大きい。

以上の内容を総合し、4段階中の「 A 」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

重点目標 2 いじめの防止

平成25年6月に公布された「いじめ防止対策推進法」では、「いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう」と定義している。その上で、学校は、その学校の実情に応じ、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針「学校いじめ防止基本方針」を定めるものとするとして規定している。さらに、学校におけるいじめの防止として、児童等の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流の能力の素地を養うことがいじめの防止に資することを踏まえ、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図らなければならないと定めている。

本校では平成26年3月に、「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止・早期発見・対処に組織的に取り組んでいる。取組の評価として、いじめに関するアンケート調査等の結果を分析し、取組が適切に行われた否かを検証し、期待するような指標等の改善が見られなかったような場合には、その原因を分析し、取組内容や取組方法の見直しを行うことにしている。

<いじめの未然防止のための取組> 「附属中学校いじめ防止基本方針」から

1 教育・指導場面

- ①「いじめは人間として絶対に許されない」との強い認識を、学校教育全体を通じて、生徒一人一人に徹底する。
- ②教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進により、生徒の社会性を育むとともに、幅広い社会体験・生活体験の機会を設け、他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養う。
- ③全ての生徒が心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に参加・活躍できる授業づくりや集団づくりを行う。
- ④授業についていけない焦りや劣等感などが過度なストレスとならないよう、一人一人を大切に、学ぶ喜びのある授業づくりを進める。
- ⑤ストレスを感じた場合、それを他人にぶつけるのではなく、運動や読書などで発散したり、誰かに相談したりするなどストレスに適切に対処できる力を育む。
- ⑥学校の教育活動全体を通じ、生徒が活躍し他者の役に立っていると感じたり、困難な状況を乗り越え充実感を味わったりすることができる体験の機会を全ての生徒に提供し、生徒の自己有用感が高められるよう努める。
- ⑦学級活動や道徳の時間に、いじめに関わる問題を取り上げ、いじめは人権侵害であり、絶対に許されない行為であることを毅然と指導する。
- ⑧携帯・スマートフォン・パソコン等を使って他人を誹謗・中傷する情報を発信することは「いじめ」であり、決して許される行為ではないことを生徒に徹底するとともに、インターネットを通じて送信される情報の特性に関する学習や情報モラル教育について学校全体で取り組む。
- ⑨生徒会活動などにおいて、生徒自身の主体的な参画によるいじめ問題への取組が促進されるよう適切な指導や助言を行う。
- ⑩生徒の言葉や態度及び遊び等に注意を払い、不適切な場合は指導する。
- ⑪教職員の言動が、生徒を傷付けたり、他の生徒によるいじめを助長したりすることがないように、細心の注意を払う。
- ⑫いじめが解決したと見られる場合でも、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。

2 家庭・関係機関・地域社会との連携

- ①学校いじめ防止基本方針や指導計画を公表し、保護者や地域住民の理解を得るよう努める。
- ②家庭や地域社会と連携して、いじめ問題の解決に向けた取組を進める姿勢を示すとともに、必要に応じて警察・児童相談所との円滑な連携や情報の共有を図る。
- ③保護者会、市内中学校及びそのPTA組織、関係機関とともに、いじめ問題について協議する機会を設け、いじめの根絶に向けて、地域ぐるみの対策を推進する。

1 実践事項への取組

(1) 言語活動やグループ活動の充実 教科等の授業



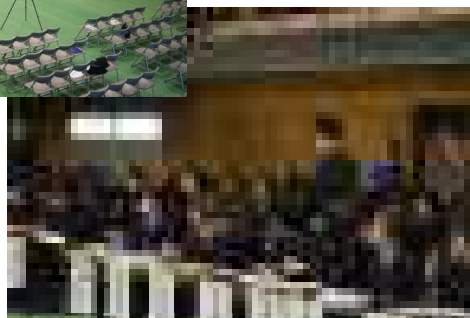
小グループ



学級全体



学年全体



生徒会活動



朝のあいさつ運動



葉っぱ一枚一枚に友達のよいところを記述した「なかよしの木」

(2) 短学活や道徳の時間の工夫

「アサーショントレーニング（1年）」

よりよい人間関係を築いていく力を育てるためのソーシャル・スキル・トレーニングの一環として、自分も相手も大切にしたい、さわやかな自己表現（アサーティブな表現）を身に付けさせるための授業を実践している。



しずかちゃんと言えば、言わずと知れたドラえもんに出てくるあのキャラクターです。ドラえもんの中で、

- ・のび太は（ ）。
- ・ジャイアンは（ ）。
- ・スネ夫は（ ）。

というキャラクターです。

その点、しずかちゃんは、自分の言いたいことははっきり言うけれど、聞いている人が傷つけないように話します。

例えば、

のび太：「しずかちゃん、遊ぼう」

しずか：「ごめんなさい、のび太さん。もうすぐお母さん用事で出かけないといけないから、遊びに行けないわ。」

決して、「イヤっ」とか、「ダメ」と言うような否定の言葉だけを言ったりしません。このように自分の言いたいことを言うのだけれど、相手の立場に立って相手が傷つかないように言う表現を（ ）な表現と言います。そして、アサーティブな表現を身に付ける練習をアサーショントレーニングと言います。

日頃、何気ない会話の中で、案外私たちはお互いを傷つけてしまったり、すれ違いを感じたり、ひどいときにはけんかになってしまったりするものです。

お互いがアサーティブな表現を身に付けるだけで、気持ちよく生活することができますし、誤解やすれ違いをなくし、ひいてははじめも少なくなるのではないのでしょうか。

自分が、普段の言葉のやりとりの中でどんな言葉を使っているかここで考えてみましょう。

【トレーニング】

1 次の言葉は「しずかちゃん」「のび太」「ジャイアン」「スネ夫」のうち誰の言葉でしょう。

- 「そのマンガの本、おれに貸せ。貸さないとぶん殴るぞ」
- 「ドラえもん助けてよ。あのマンガを読みたいんだけど、お小遣いが足りなくて…。」
- 「そのマンガ、おもしろそう。もし良かったら1日だけ貸してもらえる？それか、どこで買ったのか教えてくれたら来月のお小遣いで買ってみようかな。」
- 「そのマンガなら、もう読んだよ。あんなの、ヒマ人が読むマンガだね」

2 次の場面で「ジャイアン」「のび太」「しずかちゃん」はどう答えるでしょう。

- ① 昨日の夜、ゲームをしすぎて宿題ができていないから、君のを見せてくれない。
- ② 教室の中が暑いから、窓を開けてほしいけど…。

「スクールカウンセラーとの連携（２年）」

鳴門教育大学生徒指導支援センターが開発した『いじめを解決する力』を強めるワーク』を資料に、本校スクールカウンセラーの竹口佳昭先生とのティームティーチングを行った。

資料に使用されている漫画は、五十嵐かおるさんの作品「いじめ～ひとりぼっちの戦い～」（2007年小学館）に収められた短編「明日に吹く風」で、中学校の女子陸上部におけるいじめを取り上げている。

「いじめを解決する力」を考えよう

この資料は、漫画家の五十嵐かおるさんが、2005年から、雑誌『ちゃおデラックス』『ちゃお』に掲載した「いじめ」シリーズの中の、「明日に吹く風」という話しの前半部分です。「明日に吹く風」は、小学館の『ちゃおコミックス』の「いじめ～ひとりぼっちの戦い～」に収められています。舞台は、ある中学校の女子陸上部、そこで起きたいじめがこの漫画のテーマです。





発問

- 1 中島実咲（主人公）は、どんな性格だろう。どんな気持ちだろう。
- 2 日富光希（陸上部の部長）は、どんな性格だろう。どんな気持ちだろう。
- 3 優花、まあちゃん（同級生部員）は、どんな性格だろう。どんな気持ちだろう。
- 4 他の陸上部員は、どんな性格だろう。どんな気持ちだろう。
- 5 上の1～4のいずれかの立場になって、いじめを解決するための今後の展開を考えてみよう。

「模擬体験：情報モラル（3年）」

メールやラインによる会話にはどのような落とし穴があるのか、実際にありがちな場面を設定し、ロールプレイ（役割演技）や疑似体験を取り入れながら、それぞれの場面ごとに話し合い、考えを深めていった。

 <p>交友関係・仲間づくりについて考えよう。</p> 	<p>交友関係・仲間づくりについて考えよう！</p> <p>[シチュエーション]</p> <p>あなたは、Aさん、Bさん、Cさん、Dさんの5人でいつも仲良くしています。</p>
<p>場面①</p> <p>受信メール from Bさん</p> <p>今日の塾の帰りにAが、私に「あんたこの前のテスト70点だったよなあ、ちゃんと勉強しなよ」って言ってきた。自分ができるからって調子に乗って！</p> <p>あなたは、Bさんにどんな返信メールを送りますか？なぜその内容ですか？</p> <p>返信以外の行動は？</p>	<p>場面②</p> <p>受信メール from Aさん</p> <p>勉強頑張れよって意味でBに「ちゃんと勉強しな」って言ったのにキレられた。もうあいつとは話さな。あんたもBと話さなといてな。</p> <p>あなたは、Aさんにどんな返信メールを送りますか？なぜその内容ですか？</p> <p>返信以外の行動は？</p>
<p>ライン</p> <p>Bさん OK！</p> <p>《私》 OK！</p> <p>Aさん 明日10時に駅前に集合！スポーツ店いこう。</p> <p>Cさん ちょっと遅れるから、先行っというて。</p> <p>Aさん Dはどうするの？</p>	<p>場面③</p> <p>Bさん マジで。CがOOのことが好きってY知っとるよな</p> <p>Dさん みんなでY無視ろう。</p> <p>Aさん YってOOのことが好きなんやって。</p> <p>Cさん Yむかつくわ。無視ろう</p> <p>《私》</p>
<p>場面④</p> <p>Yさん ええ？Aの作り話や。</p> <p>Rさん もうあいつらと関わらんとこう。《私》もあいつらから離れなよ。</p> <p>Xさん YがOOのことが好きってウサをAが流してるよ。</p> <p>Pさん Aたち調子にのっつるよなあ。</p> <p>《私》</p>	<p>メールやライン等を今後どのように使うべきだと考えますか？</p>

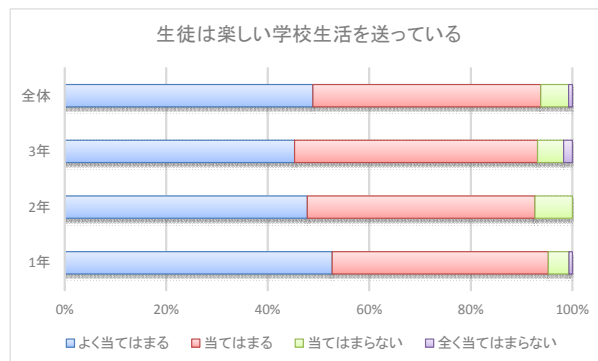
2 評価項目の状況

(1) 保護者対象アンケート

「生徒は楽しい学校生活を送っている」 目標95%以上（昨年94.4%）

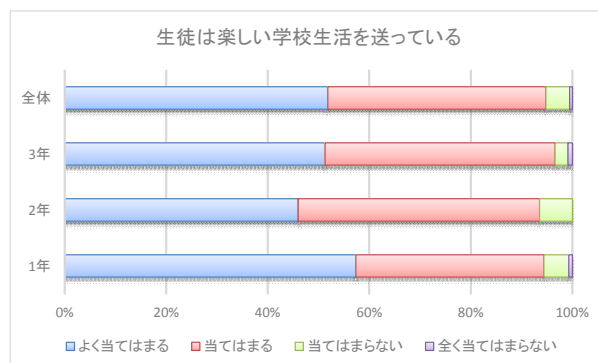
第1回（7月） 93.77%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	78	65	53	196
当てはまる	63	61	56	180
当てはまらない	6	10	6	22
全く当てはまらない	1	0	2	3



第2回（12月） 94.79%

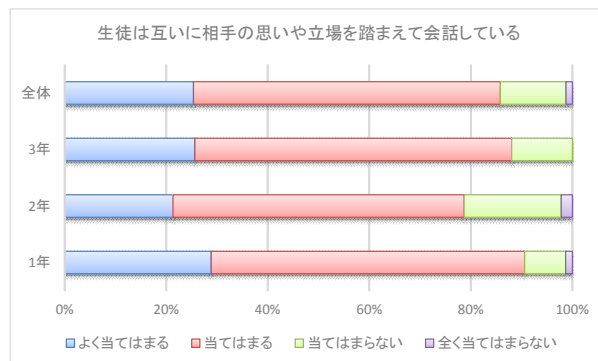
	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	82	57	60	199
当てはまる	53	59	53	165
当てはまらない	7	8	3	18
全く当てはまらない	1	0	1	2



「生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話している」 目標90%以上（昨年88.5%）

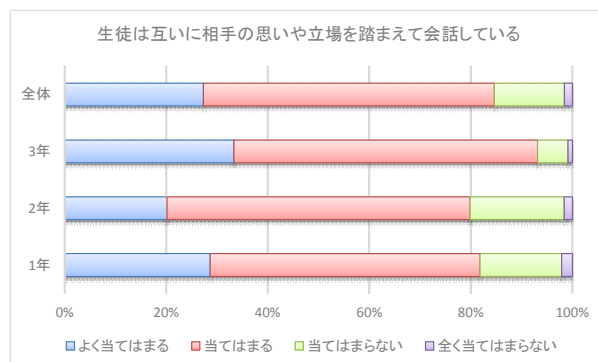
第1回（7月） 85.82%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	43	29	30	102
当てはまる	92	78	73	243
当てはまらない	12	26	14	52
全く当てはまらない	2	3	0	5



第2回（12月） 84.64%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	41	25	39	105
当てはまる	76	74	70	220
当てはまらない	23	23	7	53
全く当てはまらない	3	2	1	6



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 言語活動やグループ活動の充実

当初申告	最終申告	評価
1時間の授業の中に意見交流の時間を組み入れる。	授業のねらいに応じて1時間の授業の中に意見交流の時間を組み入れることができた。	A
授業において、間違っただ発言を認めたり学びあったりできる雰囲気を作るため、ペア学習を毎時間取り入れる。	ペア学習は毎時間取り入れ、学び合う雰囲気はできたと思う。後期からは班活動も多く取り入れ、一層活発な学び合いができたと感じている。	A
司会者を擁立し、意見交換の場を設け、各自の思いを伝え合うすべを習得させる。	毎回司会者を擁立した話し合い活動を行うことは難しかったが、話し合うべき議題が生じた際に行ったので、頻度としては多かったと感じている。	B
毎時間、グループでの実験または話し合いの時間を取り入れる。	毎時間、グループでの実験または予想や考察をする活動を取り入れることで、子ども同士がコミュニケーションをとることができた。	B
毎時間ペアワークかグループワークを行い、一人一人の役割を明確に提示する。	毎時間ペア、グループワークを設定することはできたが、グループワークにおいて一人一人の役割を提示するには至っていない。	C

イ 短学活や道徳の時間の工夫

当初申告	最終申告	評価
登校してきた生徒が目に見えるように、毎朝、学級全体として、前日の良かった点や頑張る部分などを板書しておく。	毎朝の板書を欠かさず行うことで、1日の生活の意識付けを行うことができ、生徒の良かった点を板書することで、他の生徒が同じように行動する場面が見られるようになった。	A
帰りの学活で取り組んでいる1日の振り返りの活動における目標の立て方や話し合いの仕方を、学級活動の時間に指導する。	学級活動の時間を活用し、キャリア教育とも関連させて目標の立て方についての学習を行った。	A
短学活で毎日黙想の時間を設け、他者に対する自分の振る舞いを振り返らせる。	毎日続けることができ、担任として1日の締めくくりをすることができた。	A
道徳に時間を充実させるために、心に響く自作道徳教材を5つ以上作り、学年共通で展開する。	教育実習生と一緒に作ったものを含めて4つ作ることができた。	B

朝学活前，授業開始前や昼休み後など，できる限り生徒と共に過ごす時間を作り，生徒理解に努める。	朝できるだけ早く教室に行き，生徒の様子を見るように心がけた。個々の生徒への対話は大切にしているが，全員とゆっくり話をすることはできなかった。	B
毎月，放課後を利用して三役会議を開き，学級の様子や人間関係などについて，生徒と教師間での気づきを共有する。	三役会議は9回しか行えなかったが，それ以外にも生徒の話を個人的に聞くことで，いじめにつながりそうな情報をつかむことができた。	B

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 授業の中での話し合い活動やグループ活動を充実させ，日常的に人間関係が良好に保てるように取り組んでいる。
- 保護者対象アンケートや全国学力・学習状況調査の生徒質問における「楽しい学校生活」に関する項目の評価が高い。
- 生徒対象生活アンケートにおける「無視・仲間はずれ・悪口」といった項目が，昨年度より減少している。

(2) 改善を要する点（課題）

- 生徒対象生活アンケートにおける「軽い暴力・持ち物に対するいたづら・ネット上のいやがらせ」といった項目が，昨年度より増えている。
- 道徳教育や人権教育，情報モラル教育に関する教員研修が十分に実施できていない。

以上の内容を総合し，4段階中の「 B 」と判断する。

自己評価の基準	A 十分達成されている
	B 達成されている
	C 取り組まれているが，成果が十分でない
	D 取り組みが不十分である

* 評価項目ごとの自己評価の基準は，以下同じ

重点目標 3 キャリア教育の推進

平成23年1月に、中央教育審議会の答申である「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が取りまとめられ、キャリア教育の新たな方向性や発達段階に応じたキャリア教育の充実方策が示された。その中で、キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。

従来型の進路指導は、入試が終われば進路指導は終わるという、集中的な支援として捉えられていたが、キャリア教育では、生涯を通じた人間形成という視点から指導することが必要となる。また、幼稚園から高等学校へとキャリア教育を進める中で、中学校段階においては、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について考えさせるために、職場体験等の体験的な学習活動を通して、現実の社会を学ぶ活動を推進することが大切である。

本校では、キャリア教育目標として「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」を掲げるとともに、本年度の教育活動における重点目標の一つとした。

鳴門教育大学附属中学校 キャリア教育全体計画

保護者の願い ・大学の附属学校であることの特長を生かした教育活動。自己実現へ向かう調和的人格の伸長。 地域や産業界の願い ・勤労意欲をもち、社会貢献に寄与することができるリーダーとしての資質の育成。	学校教育目標 知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。	生徒の実態 ・全国学力調査の質問紙調査「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」において、肯定的回答が大変多い。一方で、「今住んでいる地域の行事に参加している」において、肯定的回答の割合が少ない。	
目指す生徒像 ・目標をもち、自主的、創造的に学ぶ生徒 ・強靱な意志と身体をもち、たくましく生き抜く生徒 ・優しく思いやりの心をもち、人につくす生徒			
本年度の重点目標			
社会に生きて働く思考力等の育成 文部科学省の指定研究を生かして、社会に生きて働く思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業を創造し、研究の成果の普及を図る。	いじめの防止 授業等における言語活動やグループ活動を充実させたり、道徳科や短学活の指導を工夫したりして、相互理解を進める。	キャリア教育の推進 教育実践を通して目指す生徒の具現化や、役割を明確にして係活動を徹底することで、自分らしい生き方の実現を図る。	
キャリア教育目標(目指す生徒像)			
○ 徳島県のキャリア教育目標:「夢や目標をもって努力し、主体的・協同的に学び続ける生徒の育成」 ○ 本校のキャリア教育目標:「学校や家庭や地域社会の中で、自分の役割を果たしながら将来に夢をもって生きる生徒の育成」			
キャリア教育で育成すべき能力・態度			
かかわる力	みつめる力	すすむ力	えがく力
人間関係形成・社会形成能力 ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を養う。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。	自己理解・自己管理能力 ・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 ・自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。	課題対応能力 ・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	キャリアプランニング能力 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・整理し活用する。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。
各学年における重点目標			
1学年 ・自分の良さや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする。 ・集団の一員としての役割を理解し、果たそうとする。 ・将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。	2学年 ・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一委員としての自覚が芽生えるとともに社会や大人を客観的にとらえる。 ・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。	3学年 ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。 ・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。	

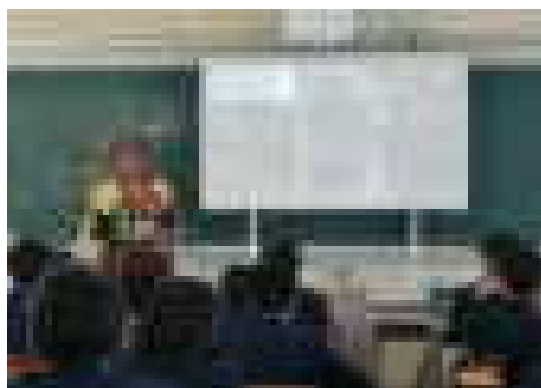
1 実践事項への取組

(1) 目指す姿や付けたい力の具体化と振り返り

「パプアニューギニア教員との交流学习（1年）」

大学の教員教育国際協力センターを通して、海外の教育研修員が年間4回程度本校を訪問している。本年度は、ミャンマー12名（6月）、大洋州12名（6月）、パプアニューギニア8名（11・12月）、フランス語圏アフリカ15名（2月）の4回であった。このうちパプアニューギニアの研修員訪問に合わせ、1年生の総合的な学習（国際化領域）の中で、2週にわたって研修員の先生と交流する機会を設定した。1週目は、生徒と研修員の先生が学校や母国の紹介を英語で行い、2週目は研修員の先生が英語で授業を行った。

国際化領域の目標は、「国際理解を通して、広い視野を持つことができる」であるが、キャリア教育の視点からは、「他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする」といった人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）の育成を図った。



「職場体験学習（2年）」

働くことの大切さ、責任感を学び、社会の一員としての在り方を考えさせたり、労働を体験し、自分の生き方について考えさせたりすることを目的に、7月1～3日の3日間、職場体験学習を実施した。153名が62グループに分かれ、県内70の事業所で様々な体験を行い、後日、保護者や1年生に向けて、学んだことを発表した。

「自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる」といった自己理解・自己管理能力（みつめる力）等の育成を図った。

藍住町立図書館



板野東部消防組合



枝豆農家



ホテルサンシャイン



徳島大学病院



TSUTAYA フジグラン北島店



<事業所一覧>

- 公共機関 徳島市立図書館, 藍住町立図書館, 徳島大学附属図書館
- 26 防災センター, 徳島市東消防署, 板野東部消防組合
自衛隊徳島地方協力本部, 海上自衛隊
徳島地方气象台, 徳島阿波踊り空港
徳島県立博物館, 徳島市立動物園, 大塚国際美術館
徳島市農協北井上支所(枝豆農家)
鳴門教育大学, 徳島大学
新町幼稚園, 福島幼稚園, 沖洲幼稚園, 八万幼稚園, 八万南幼稚園
加茂名幼稚園, 羽ノ浦幼稚園, ナーサリー富田幼稚園, 四国大学附属保育所
附属幼稚園
- ホテル4 ホテル千秋閣, セントラルホテル鴨島, ホテルサンシャイン
東横イン徳島駅眉山口
- 病院3 大櫛内科, 古川病院, 徳島大学病院
- 薬局3 三谷薬局本店, 三谷薬局吉野本町店, レディ八万店
- 量販店2 ヤマダ電機テックランド徳島本店, コーナン徳島住吉店
- 小売店16 きん星ベーカリー本店, パン市場アンシュシュ, メーアコロン
パパベル住吉店, パパベル国府店, パンコンプレ, 白いブランコ
平惣ゲオ川内, 平惣徳島店, ゲオ矢三店, 平惣タクト店
黒崎楽器, TSUTAYAフジグラン北島店
ササクラスポーツ徳島本店, スポーツデポ藍住店, ゼビオゆめタウン徳島店
- 飲食店10 王将徳島駅前店, 天下一品徳島, 三八田宮店,
モスバーガー徳島末広ベイサイド店, マクドナルド石井店
chuchuチュロス東新町店, chuchuチュロス沖浜店, ハレルヤスイーツキッチン
タリーズ田宮店, スターバックスゆめタウン徳島店
- 建設会社1 北島組
- 放送局2 四国放送, エフエム徳島
- 娯楽施設3 ダイヤレーン, あらたえの湯, えびすの湯

<発表会 (ポスターセッション) >



「高校体験入学（3年）」

夏期休業中（8月）に県内各高校で実施される体験入学について、生徒と保護者に紹介するとともに教員も参加し、各校の特色ある取組等を理解し、進路指導の参考となる情報を収集した。

「進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する」といったキャリアプランニング能力（えがく力）の育成を図った。

「校外学習でのお接待体験（3年）」

10月19日の校外学習（バス遠足）で、香川県の善通寺を訪れ、事前に手作りした約400枚のしおりをお遍路さんに手渡した。

「人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を養う」といった人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）の育成を図った。



「高校説明会（3年）」

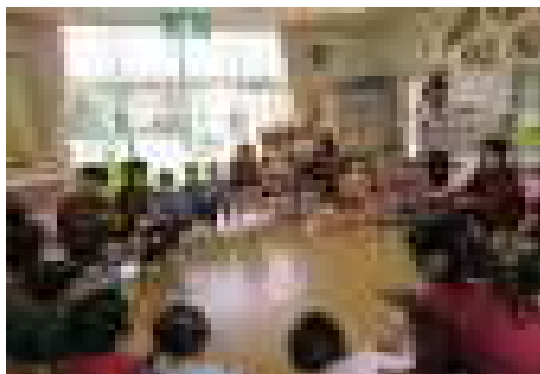
10月28日に徳島市内の高校の先生を招き、生徒と保護者に対して各校の特色や卒業後の進路等について説明していただいた。高校入学から卒業後までの将来を見通した上で、進路決定を促す機会となった。

「生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・整理し、活用する」といったキャリアプランニング能力（えがく力）の育成を図った。

「幼児との触れ合い体験（3年）」

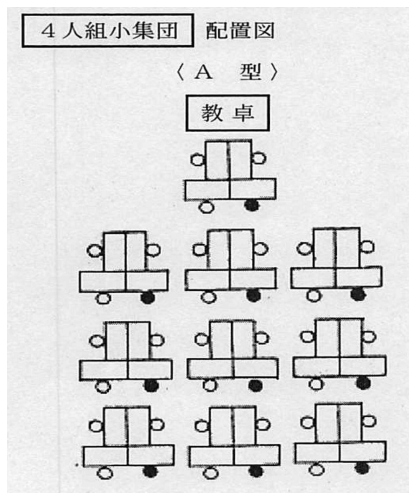
技術・家庭科（家庭分野）の学習の一環で、11月19・24・26・30日に各学級ごとに附属幼稚園を訪問し、幼児との触れ合いを体験した。

「他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする」といった人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）の育成を図った。



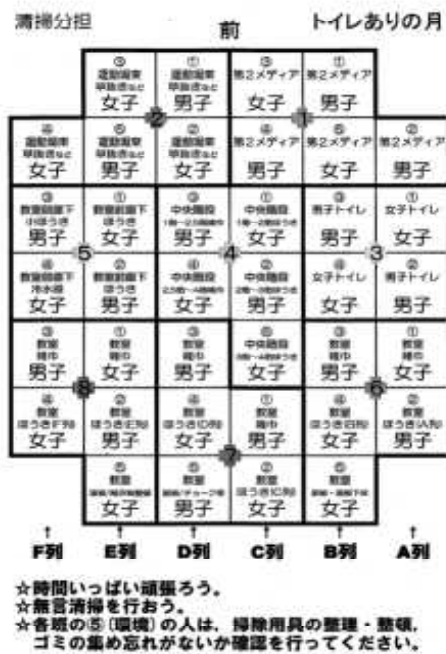
(2) 役割の明確化や係活動の徹底

「小集団(学習班)での基本的な話し合いの方法」(本校の「学習ガイドブック」から)



- の位置の生徒が司会をする。
- ① テーマの確認をする。
- ② 司会の左から時計回りの順に発言する。
 - ・要点をまとめて、短時間で述べる。
 - ・発言が一通りまわる間は、班員の意見を静かに聞く。
 - ・他の人の発言中に思いついたことや疑問点は、必ずメモする。
- ③ 一通り意見を聞いた後、司会を中心にして自由に討論する。
 - ・反対意見を述べたり、批判したりしてもよい。
- ④ 班としての意見をまとめる。

「清掃分担の例」



「帰りの学活の進行例」

帰りの学活の進行

(連絡黒板に連絡事項が書かれているかを確認する。)
(全員を席に着かせ、静かにさせる。)

日直：これから帰りの学活を始めます。
議員：起立。礼(お願いします)。着席。
日直：学習と連絡を机の上に出してください。
(全員が、出せているか確認！)
日直：総務委員さん、明日(次の学習日)の連絡を、お願いします。
総務：(授業内容や準備物を連絡する)
日直：他に係や委員会から連絡はありませんか。
係や委員：教科係や委員が、連絡する。
日直：それでは、新聞スピーチをお願いします。
(全員が、聞く姿勢になっているかどうかを確認！)
スピーチ・・・これでスピーチを終わります。礼。
日直：机の整頓をして下さい。
窓ぎわの人は鍵をかけてください。
日直：先生からの、連絡をお願いします。
(自分の席へ帰る。)
担任 (連絡事項やお話)
・・・終わります。
議員 起立。礼(さようなら)。

毎日の学校生活において、集団生活を営む上で自分の役割を果たす意義を理解させ、主体的・協働的に取り組む態度を育てようとしている。

キャリア教育の観点からは、次のような力を育成している。

- 「リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする」といった人間関係形成・社会形成能力(かかわる力)
- 「自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる」といった課題対応能力(すすむ力)
- 「日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する」といったキャリアプランニング能力(えがく力)

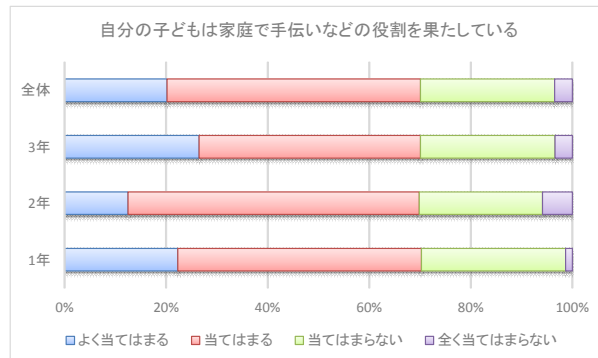
2 評価項目の状況

(1) 保護者対象アンケート

「自分の子どもは家庭で手伝いなどの役割を果たしている」目標60%以上（昨年56.1%）

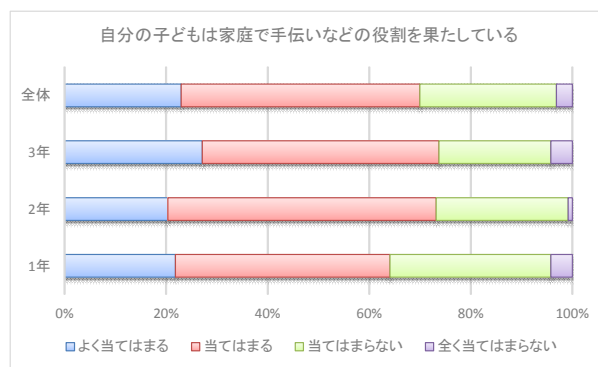
第1回（7月） 70.07%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	33	17	31	81
当てはまる	71	78	51	200
当てはまらない	42	33	31	106
全く当てはまらない	2	8	4	14



第2回（12月） 69.97%

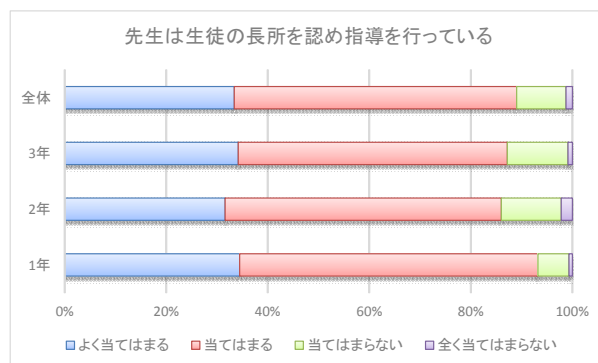
	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	31	25	32	88
当てはまる	60	65	55	180
当てはまらない	45	32	26	103
全く当てはまらない	6	1	5	12



「先生は生徒の長所を認め指導を行っている」目標80%以上（本年度から）

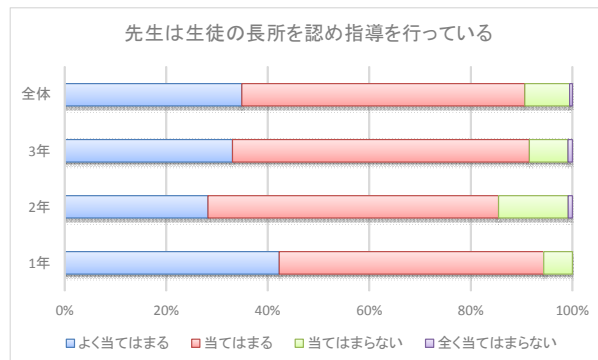
第1回（7月） 89.03%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	51	43	40	134
当てはまる	87	74	62	223
当てはまらない	9	16	14	39
全く当てはまらない	1	3	1	5



第2回（12月） 90.63%

	1年	2年	3年	全体
よく当てはまる	60	35	39	134
当てはまる	74	71	69	214
当てはまらない	8	17	9	34
全く当てはまらない	0	1	1	2



(2) 教職員対象自己申告による目標管理

ア 目指す姿や付けたい力の具現化と振り返り

当初申告	最終申告	評価
授業において、個別課題・個別学習の単元を設け、他の学習者と優劣を比べることのない学習機会を作る。	個別課題・個別学習の単元を設け、他の学習者と優劣を比べることのない学習機会を作ることができた。	A
学級への所属感を育てるため、毎夕、教室環境を整える。	毎夕、棚や黒板まわり、机などの教室環境を整えることで、生徒も率先して美しい教室環境に努めるようになった。	A
学校行事や総合的な学習の時間に積極的に取り組めるように、短学活や授業で、活動の意義や役割を果たすことの大切さについて話したり、その後の感想で振り返りをさせる。	行事や総合的な学習の時間の活動に至る前には、その意義などについて、しっかり語ったことで、学級の生徒たちはこれらを中学校の一番の思い出と感じており、学級への所属感を持つことができた。	A
班活動や学校行事に積極的に取り組ませることで、連帯感や所属感を育てる。また、班活動へ積極的に関わられるように、1日の振り返り、1週間の振り返りをさせる。	行事を通して連帯感や所属感を育てることはできた。普段の班活動でも班員を大切にした言動ができるようにさせたい。	B
職場体験学習を通して、働くことの良さや将来に向けてのビジョンの二つの視点でまとめられるようにする。	将来のビジョンが持てるような、目標設定シートを作成し、将来に向けての意欲が持てるようにした。	B

イ 役割の明確化や係活動の徹底

当初申告	最終申告	評価
授業の中で、班の一人一人の役割を作り、それを達成させる。	班で司会者、発表者、書記などの役割を設け、確実に役割を果たすようにさせた。	B
学級生活や学校行事などを通して、活躍できる場（役）を一人1回以上設定する。	学級生活や学校行事などで、何か役割があることで、消極的であった生徒が積極的になったと感じた。	B
清掃活動では、学年の分担場所を定期的に巡視し、役割を自覚し責任を持って取り組むよう指導するとともに、きちんと取り組めていれば褒め、さらに意欲を高める。	清掃分担が広範囲であり、不十分な点もあったが、生徒たちへの声かけを継続し、生徒たちは責任感を持って取り組んでいた。	B

学校行事前には清掃時間を延長し、具体的な清掃分担と活動内容を示し、生徒が主体的に自分の役割を果たせるように努める。	具体的に、誰が、どこを、どのようにするという明確な指示がなされ、生徒は積極的に取り組むことができた。	B
学級での役割、仕事等をよく観察し、良いところを褒め、係以外の仕事を手伝ってくれるように声をかけ、自分が学級のために役に立っていることを実感させる。	学級での役割や仕事等をよく観察したうえで、良いところを褒め、係以外の仕事を手伝った時には、ねぎらうとともに、短学活でその行動を紹介した。	B

3 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

(1) 優れた点（成果）

- 目指す生徒像として、「自分の役割を果たしながら、将来に夢を持って生きる生徒」を掲げ、3日間の職場体験学習を充実させたり、日々の係活動を徹底させたりしながら、キャリア教育に取り組んでいる。
- 保護者対象アンケートにおける「あいさつ・法令遵守」に関する項目の評価が高い。
- 全国学力・学習状況調査の生徒質問における「自分にはよいところがある・将来の夢や目標がある」に関する項目の評価が高い。

(2) 改善を要する点（課題）

- 生徒対象生活アンケートにおける「自分なりのよさがある」に関する項目が、6月の評価から低下している。
- 日々の活動に関しては、教員が個々に取り組んでいる状況があり、あいさつや清掃、時間を守るといったことが十分にできていない生徒がいる。

以上の内容を総合し、4段階中の「 B 」と判断する。

自己評価の基準	A 十分達成されている
	B 達成されている
	C 取り組まれているが、成果が十分でない
	D 取り組みが不十分である

* 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

	観点番号	資料番号	添付	別添	資 料 名	備考
1	1・2・3	0-①	○		保護者対象アンケート集計結果	
2	1・2・3	0-②		○	教職員対象自己申告による目標管理 自己評価結果	資料回収
3	1	1-①		○	平成27年度全国学力・学習状況調 査結果（学力調査）	資料回収
4	2・3	2-①		○	生活アンケート集計結果	資料回収
5	2・3	3-①		○	平成27年度全国学力・学習状況調 査結果（生徒質問紙）	資料回収